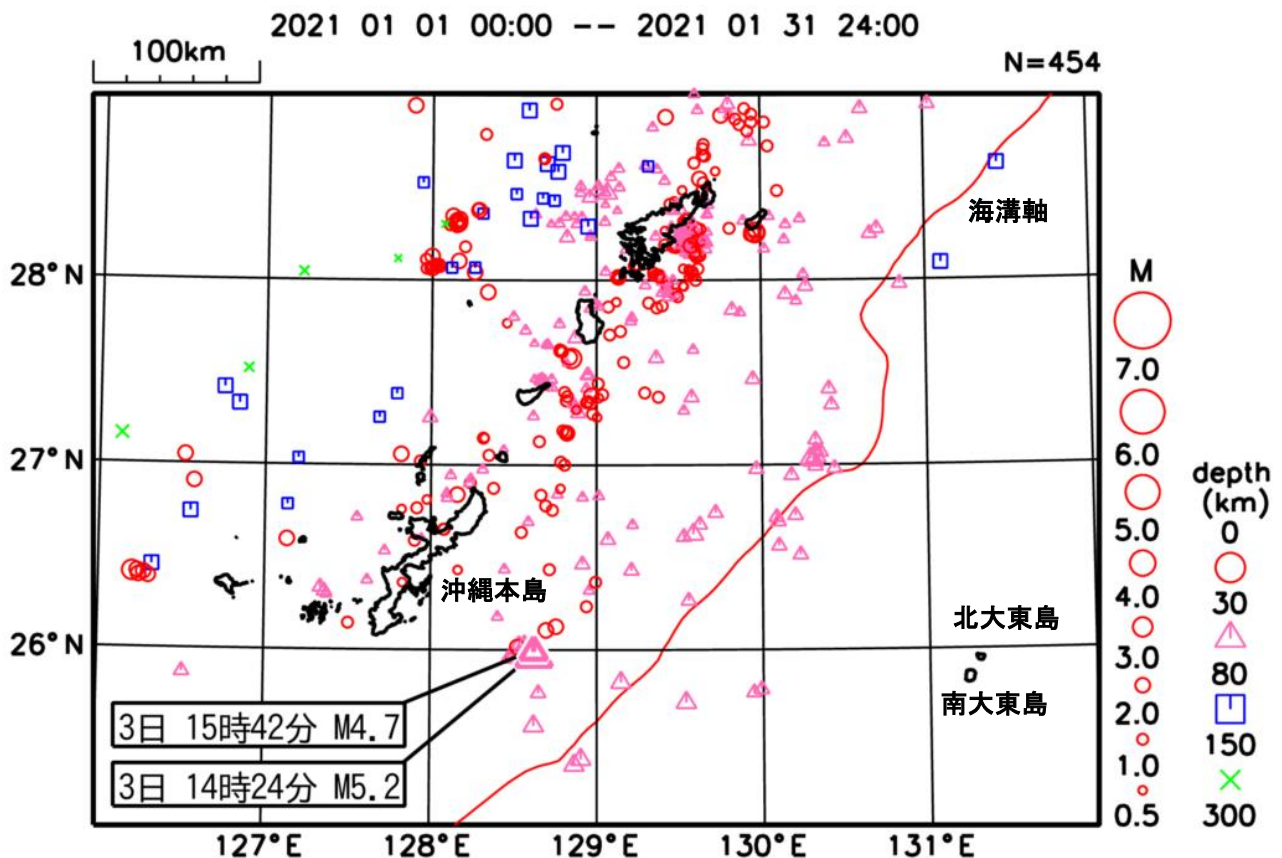


大東島地方の地震活動

2021年1月

南大東島地方気象台

震央分布図



図中の記号 M：マグニチュード depth：震源の深さ

N：地震回数（マグニチュード0.5以上の回数です）

沖縄県内で震度1以上を観測した場合は、吹き出しで示しています。

[概況]

今期間に、大東島地方で震度1以上を観測した地震はありませんでした（12月もなし）。
なお、沖縄本島地方では2回観測しました（12月は4回）。

また、大東島地方周辺（上図の範囲）で観測した地震は454回（12月は893回）で、このうちM4.0以上の地震は3回（12月は4回）でした。

※沖縄地方（沖縄県）の地震については、沖縄気象台作成の「沖縄地方の地震活動」をご覧ください。

URL：<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/data/jishin/month.html>

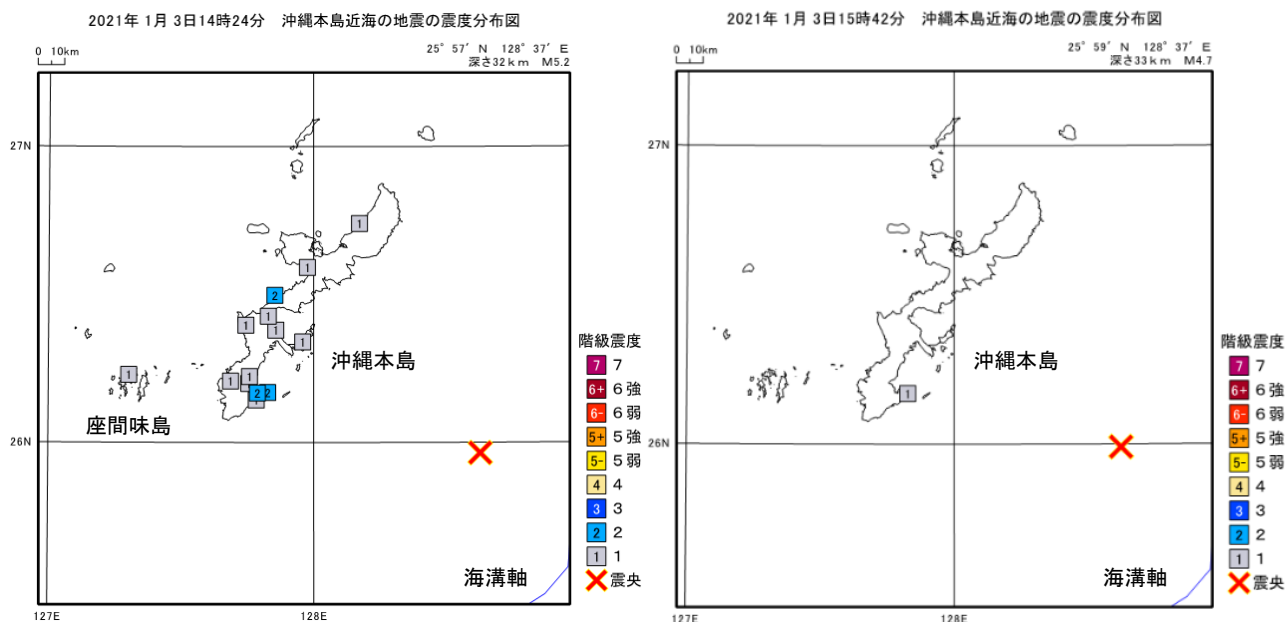
大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の表（期間：2021年1月1日～31日）

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2021年01月03日14時24分 沖縄県	沖縄本島近海	25° 57.8' N	128° 37.5' E	32km	M5.2
震度 2：恩納村恩納＊，南城市知念久手堅＊，南城市佐敷字佐敷＊					
震度 1：名護市港＊，国頭村辺土名＊，那覇市樋川，読谷村座喜味，西原町与那城＊ 与那原町上与那原＊，座間味村座間味＊，うるま市みどり町＊ うるま市石川石崎＊，うるま市与那城平安座＊，南城市玉城字玉城					
2021年01月03日15時42分 沖縄県	沖縄本島近海	25° 59.3' N	128° 37.3' E	33km	M4.7
震度 1：南城市知念久手堅＊					

＊の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

※大東島地方及び沖縄本島地方以外に震度が観測された場合は、その震度も記載します。

大東島地方及び沖縄本島地方で震度1以上を観測した地震の震度分布図



※資料中のデータについて

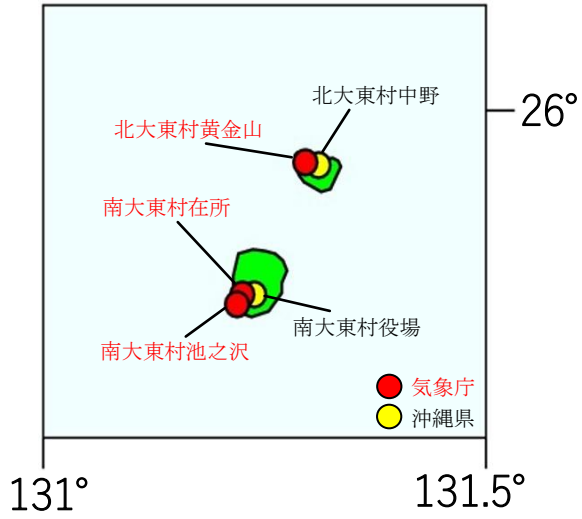
この資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※概況中の震源の深さについて

震源の深さは、精度がやや劣るものは表記しないことがあります。

※データについては精査により、後日修正することがあります。

大東島地方の震度観測点



 **気象庁 南大東島地方気象台**
Japan Meteorological Agency Minamidaitoujima Local Meteorological Office

本件に関するお問い合わせ先

電話: 09802-2-2006

ホームページ: <https://www.data.jma.go.jp/daitou/>

津波から命を守る行動

日本列島に甚大な被害をもたらした「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（以下、「東日本大震災」）から間もなく10年を迎え津波への脅威が忘れられていくことが危惧されます。改めて津波被害からの教訓を再確認してはどうでしょうか？

東日本大震災で、大津波に襲われた岩手県釜石市の子どもたちは自主的な避難行動によって自らの命を守ることができました。そこには、長年の防災教育により、自らの命を守る教えがしっかりと身につけていたことが示されています。

釜石市の子どもたちをお手本に、津波から命を守る行動について学びましょう。以下に紹介するアドレスから確認できますので、参考にしてください。



津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」
（気象庁）
https://www.jma.go.jp/jma/kishouu/books/tsunami_dvd/anime.html



津波から命を守る！津波の避難3原則
（内閣府）
<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg14286.html?nt=1>

津波から命を守るポイント

・津波について知り、身を守る方法を知っておこう

津波の恐ろしさを知り、高台までの道を考えておきましょう。釜石市の子どもたちは訓練で避難方法を何度も練習していたので、すばやく安全に逃げることができました。

・もっと安全なところまで逃げられないか考えよう

釜石市の子どもたちは一度高台に逃げた後もここなら大丈夫と安心せず、さらに高いところへ逃げました。はじめにいた高台はその後、津波に飲み込まれてしまいました。より高いところへと逃げ続けたことで命を守ることができました。

・自分から進んで避難しよう

誰かが逃げると周りの人も逃げます。まず自分が逃げましょう。それが多くの人の命を救うことにもなります。釜石市では中学生がはじめに逃げたことで、周りの小学生や近所のお年寄りも逃げ始めました。

私たちの住んでいる沖縄地方は周りを海に囲まれており、地震・津波に対しての備えが必要です。地震・津波は突然襲ってきますので、いざという時のための対策を考えておくことが大切です。津波から命を守る行動を忘れず、日頃の訓練や防災対策を通して、災害から自分の身を守る力を養いましょう。



地震に関する情報は
沖縄气象台ホームページまで

<https://www.data.jma.go.jp/okinawa/index.html>

沖縄气象台

検索

